

発行

北海道ポーランド文化協会

〒001-0032

札幌市北区北 32 条

西 5 丁目 2-32-902

佐光方

電話・FAX

011-790-8610

# POLE

第 76 号 2012. 10. 1

北海道ポーランド文化協会会誌



創立 25 周年記念祝賀会会場となるニューオータニイン札幌

Happy 25<sup>th</sup> Anniversary !

北海道ポーランド文化協会

## 創立 25 周年 !



本協会は、今秋で創立 25 周年を迎えました。

この間ポーランドは政治的・社会的に大きく変化しましたが、私たちはポーランドに関心をもちポーランドの文化を愛する者がつどい、ささやかながら多方面にわたってポーランド文化・芸術の紹介に努め、ポーランド旅行や札幌在住のポーランド留学生らとの交流も行ってきました。

これを記念して、第 26 回総会および創立 25 周年記念祝賀会を催します。古くからの会員、新しい会員、遠方にお住まいの会員、できるだけ多くの皆様にお集りいただき、ポーランド人の皆さんもお招きして、本協会の歩みを振り返るとともに、懇親を深め、これからの活動の力としたいと思います。万障お繰り合わせの上、ご参加いただければ幸いです。

安藤 厚 (あんどう・あつし=会長)

### 第 26 回総会及び 創立 25 周年記念祝賀会

11 月 3 日 (土) 11:15 開場  
ニューオータニイン札幌「北星の間」  
(中央区北 2 西 1 電話 011-222-1111)

会費 4 千円

#### < 総 会 >

11:30 開会 / 閉会 12:15 (予定)

#### < 創立 25 周年記念祝賀会 >

12:30 記念撮影  
開宴の言葉  
会長挨拶  
来賓挨拶と乾杯  
祝宴 (25 年の歩み、歌、ピアノ演奏ほか)  
14:25 閉会の挨拶・言葉

【祝賀会にご参加いただける方へ】 準備の都合がありますので、同封のハガキにて  
10 月 20 日 (土) までに必ずお知らせくださいますようお願い申し上げます。

11 月 3 日 (土) 午前 11 時 30 分から「第 26 回総会」が開かれます。終了後、記念写真を撮影し、引き続き、「創立 25 周年記念祝賀会」の同時開催です。是非、お誘い合わせのうえご参加ください。

総会に  
お越しください!



- < 第 1 号議案 > 2012 年度事業報告書及び収支決算書承認について及び監査報告
- < 第 2 号議案 > 2013 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) 承認について
- < 第 3 号議案 > 2013 年度の役員 (案) について
- < 第 4 号議案 > その他



レクチャー・コンサート  
21 世紀のショパン像

～新書簡集出版を祝って～

2012年11月17日(土)

14 時 30 分 開演 (開場 14 時)  
北海道大学情報教育館 3 階  
スタジオ型多目的中講義室(北17西8)



レクチャー 三浦 洋 (北海道情報大学教授) =写真上=  
ピアノ演奏 坂田 朋優・安田 文子・高橋 健一郎



プログラム

◆ 第 1 部 21 世紀のショパン像

全書簡集新訳の意義について。正しい表記への修正や、ショパンが書いた「シャファルニャ通信」に関する新たな解釈について。

坂田朋優 マズルカ 第 13 番イ短調 Op.17-4  
ワルツ 第 13 番変ニ長調 Op.70-3  
ポロネーズト短調



◆ 第 2 部 イタリアの影

ショパンが近代教育で受けた多文化的な影響。コンスタンチアのこと、ショパンの教師同士の確執、「芸術」という言葉とショパンの関係についてなど。

安田文子 ピアノ協奏曲 第 2 番へ短調作品 21(ピアノ独奏版)  
ノクターン 第 2 番変ホ長調 Op.9-2



◆ 第 3 部 バラードの誕生

ミツケヴィチやヴィイトフィツキなどポーランドの詩人たちがショパンに与えた影響。バラード第 1 番が、その後のショパンの作品に与えた影響を考える。

高橋健一郎 バラード 第 1 番ト短調 Op.23



主催：北海道ポーランド文化協会 後援：駐日ポーランド共和国大使館  
交通：札幌市北区北 17 西 5 地下鉄南北線「北 18 条駅」より徒歩 5 分(北図書館隣り)  
お問い合わせ先/090-6447-1700(佐光)

「子どもの権利条約記念日」に、ワルシャワ大学の **W.タイス 教授** が来札!

記念講演 & 展示会  
&  
映像上映

# コルチャック先生 講演と学びのタペ&パネル展

コルチャック先生の  
大きな遺産  
Big Heritage

「子どもはだんだんと人間になるのではなく、すでに人間である」

コルチャック没後 70 年そしてコルチャックがその院長を勤めた児童擁護施設「孤児の家」創設 100 年ということから、今年ポーランド政府が定めたコルチャック年です。各国で様々な企画・イベントが行われています。

日本でも日本ヤヌシュ・コルチャック協会の協力のもとでイベントが計画され、11 月 20 日にまず札幌で、そして 11 月 22 日には東京(駐日ポーランド共和国大使館)で講演会などが開催されることになりました。札幌では当協会の後援をいただくことになりました。 塚本 智宏

企画内容のメインは、ポーランドからワルシャワ大学の教授 W.タイス先生をお迎えしての講演と A.ワイダ監督の『コルチャック先生』の上映です。タイス先生は二度目の来日ですが札幌は初めてで楽しみにしてらっしゃいます。教育学が専門で、講演テーマは「ヤヌシュ・コルチャックー 子どもの発見と教育改革」が予定されています。世界で様々な進行する教育改革のなかで、「子どもから」の真の改革をと訴えられるのではと期待しています。ぜひ多くの皆様にお聴かせしたいと思います。誘い合せの上ご参加くださいますようお願いいたします。

さらに講演の後、『コルチャック先生』の上映です。1990 年に日本で上映され、その後子どもの権利条約との関連や戦後 50 年という節目近くにあつて、各地で上映運動が進められたことを思い出します。今回は、その”最後の行進”の目撃談や証言といったものにも触れてこの事実を追求しこの行進の意味も考える企画も考え、観賞+学びの機会にしました。最近は入手も難しくなった作品です。どうぞ多くの方にご覧になっていただきたいと思っています。講演等に関わる資料パンフレット(500 円)を用意しています。

▲以上は午後 5:30~9:30 の企画。



▼午後 1:30-5:00 はオプションで無料の企画です。コルチャックは“子どもの権利条約の精神的父”あるいは“子どもの人権のフロンティア”といわれたりして世界で有名なのですが、それはコルチャックの子どもを尊重しようという考え方が土台となっています。

その思想がぎっしり詰まった作品「子どもをいかに愛するか」(1918)や「子どもの尊重される権利」(1929)の内容紹介などを、今回の昼の部の企画でパネル展示を準備しました。ぜひこちらもご覧になっていただきたいと思っています。(つかもと・ちひろ=会員)

2012 年 11 月 20 日 (火)

- パネル展 ● 13:30~
- 記念講演&映像上映 ● 17:30~
- 感想交流 ● 21:10~

札幌エルプラザ 3 階ホール  
(札幌駅北口地下歩道 12 番出口直結)  
500 円(資料代としてチケット購入)

- 主催 JKA 日本ヤヌシュ・コルチャック協会  
ポーランド広報文化センター
- 問い合わせ先: 塚本智宏  
(JKA 理事・東海大学教授(札幌キャンパス))  
korczaksapporo@gmail.com

※ 詳細は同封のフライヤーをご参照。





<写真提供>運営委員・尾形氏

ポーランド作品 ◆朗読 & 音楽 ♪

ポ文協(北海道ポーランド文化協会)の会員が札幌在住のポーランドの方々と交流することは總會のとき以外余りありません。文化協会という言葉どおりに文化を通じて交流する機会はそれほど多くはなかったように思います。

どこかに集まってポーランドの詩の朗読会をしてみたい、ということで始まった「午後のポエジア」ですが、話しているうちに、詩だけでなく、一般文学もよし、音楽もよし、と幅が広がってきました。

10年ほど前、江別の小さな劇場で、パフォーマンスの間にポーランドの詩の朗読で参加した後援事業を除くと、朗読会は今年で2回目ですが、プログラムは下の欄の写真のとおり、変化に富んだ内容になりました。

“非日常の世界”で楽しもう、というのが霜田さんの提案です。



マイク・照明・机・そして背景に力強い「書」を配置。「ハレ」の舞台が観客を待つ。

会場は、北大クラーク会館3Fの国際文化交流活動室。舞台は霜田さん揮毫の大きな書を背景にし、会場の座席の周りには写真、ポスター、絵などのキッシュを並べ、やや暗いが、ユーモアとペースを感じさせる雰囲気になりました。

当日は1時半の開場でしたが、その前からお客様が集まり始め、会員以外や通りすがりにポスターを見たという人も加わり、40名弱が参加してくれました。

ポーランドの詩、映像と詩、歌とギター演奏、書簡集、自作の詩、新作能など工夫を凝らし、それぞれに楽しく演じました。

ラファウさんの映像と詩は、シンプルな○や△の図形が次々と変化していくユーモラスなストーリー。

長屋のり子さんは自作の詩の朗読で、原爆と東日本大震災に共通する人間の悲しみと強さをうたい上げました。

霜田さんは、前駐日ポーランド大使ヤドヴィガ・ロドヴィッチ・チェホフスカさんが、東日本大震災

(◆朗読 ♪音楽 ■その他)



◆ 斎田 道子  
「ポーランドの子どものうた」



◆ ラファウ・ジェブカ  
「Na straganie」



♪ ダニエル・ガイエフスキ  
「Tolerancja」



◆ 小林 暁子  
「母と娘の手紙」



◆ マズル・ミハウ  
「Stepy Akermanskie」



◆ 氏間多伊子  
「チェスワフ・ミウォシユ詩集」から



観客の前に立ち、挨拶する出演者たち



霜田副会長の書「午後のPoezja」



懇親会風景



♪ ヨアンナ・クツェヴィッチ



■ 富山 信夫 (とっておきの録音)

でなくなった方々の慰霊の気持ちをこめて、ホロコーストと重ねて作った新作能「鎮魂」を、福原光篠さんの横笛を合わせて、所作をつけて朗読。鏡板には陸前高田市の「奇跡の一本松」の写真をプロジェクターで映して使いました。

この記事の写真を写してくださった運営委員の尾形さんは、「霜田さんと福原光篠さんの篠笛という試みは、幽玄にして、作品をより引き立てていたように思います。ぜひ多くの人々に見ていただきたいものだと感じました」と感想を述べてくださいました。

終了後、ポーランド人の奥様方手作りの本格的なケーキが、コーヒー、紅茶などの飲み物とともに

参加者全員に振舞われ、楽しく歓談。ケーキは7~8種類もあり、腕前の見事さにみんな大喜びでした。

解散後、同じ会場で出演者、ポーランド人と家族、会員による打ち上げの懇親会も開かれ、ヨアンナさんの歌とギター演奏、富山さんの「とっておきの録音の話」などがあり、さらに内容豊かな交流会となりました。

「午後のポエジア」は会員参加型の例会です。出演することによって日ごろ忘れていた何かを思い出させ、自分を少しだけ開放することが出来るように思います。

来年はあなたも出演してみませんか。

(こばやし・あきこ=監事)



◆ 長屋 のり子 「自作詩」から



◆ ウカシュ・ザブウォニスキ 「Lokomotywa」他



綴帳やポスターを展示



◆ オレヤージュ・シルヴィア 「Wczesna godzina」他



福島・陸前高田の「奇跡の一本松」



◆ 霜田千代麿 新作能「鎮魂」の台本朗読 (横笛演奏) 福原 光篠





来る6日(土) お披露目公演!

## Kitara に響くポーランドオルガン音楽

＜第15代＞札幌コンサートホール専属オルガニスト

マリア・マグダレナ・カチョルさん

9月に就任したポーランド出身の専属オルガニスト、マリア・マグダレナ・カチョルさん。ポーランド、フランス、ドイツで研鑽を積み、欧州各地で演奏活動を行ってきた実力派の演奏に注目。

10月6日(土)14:00開演 ◆札幌コンサートホール Kitara 大ホール ◆全席指定一般1,000円/学生500円

### 専属オルガニストはポーランド人

札幌コンサートホール Kitara の大ホールには、素晴らしいパイプオルガンがあります。会員の皆様の中にも、その美しい響きをお聴きになった方もいらっしゃるのではと思います。このオルガン、フランスのストラスブールのケルン社が制作したものです。そのため、毎年、Kitaraに1年の契約でやって来る専属オルガニストは、フランス人が圧倒的に多かったのです。しかしこの度、第15代専属オルガニストに初めて、ポーランド人が就任しました。事業部の方から、「一度会いに来てください」という、お誘いのことばをいただいたので、当協会の会員でピアニストの安田文子さんと一緒に行ってきました。お名前はマリア・マグダレナ・カチョルさん。お若く、非常に美しい女性でした。オルガニストと聞いて、バッハのような気難しいオジサンを想像していたので、かなりびっくりしました。カチョルさんも、「北海道ポーランド文化協会」の事務局長が会いに来ると聞き、緊張していたらしいのですが(その日は、上田市長への表敬訪問もあったそうです)、私のような学生に毛が生えたような風貌の若造だったので、少し拍子抜けしたようでした。私も安田さんもポーランド語が出来ることを知り、とても喜んでくださり、興奮した面持ちで、熱くポーランドのオルガン音楽のことを語ってくださいました。

ここで簡単にマグダレナさんの経歴を紹介すると、1980年にポズナン近郊のコシチャン生まれ。7歳で音楽を始め、ミェチスワフ・カルウォーヴィチ高等音楽学校でピアノ、指揮法、室内楽、オルガンを学び、をイグナツィ・ヤン・パデレフスキ国立音楽アカデミーでピアノと音楽教育を学んだそうです。2005年からはフランスのガブリエル・フォーレ音楽院、リヨン国立高等音楽院などのオルガンクラスで研鑽を積み、アンドレ・マルシャル国際オルガンコンクール

審査員特別賞、11年、ヘルマン・スレーダー国際オルガンコンクール2位、ポーランド、リトアニア、イタリアなどの音楽祭にも定期的に出演されているようです。

### デビューリサイタルにご参集!

そして10月6日(土)14時から、Kitara大ホールで、お披露目のデビューリサイタルが行われます。バッハのトッカータのような、なじみ深い曲目も演奏されますが、ポ文協の会員にとって一番の聴きどころは、ポーランドの作曲家ミェチスワフ・スゼンスキの「悲歌作品36d」です。ポーランド版ウィキペディアにも数行の記述があるだけなので、知る人ぞ知る教会音楽の作曲家なのでしょう。「演奏会では、毎回ポーランドの作品を必ず1曲は

取り上げたい」とおっしゃっていました。先述のミェチスワフ・スゼンスキ以外にも、ユゼフとステファンのスゼンスキ兄弟(ミェチスワフとの血縁関係は不明)など、紹介したい作曲家の名前を挙げてくださいましたが、残念ながら私の知っている

人物はひとりもいませんでした。しかし、逆に言えば、これからカチョルさんを通して、ポーランド音楽の新しい世界に目が開かれるかと思うと、とても心が躍ります。Kitaraの事業部の方も、「日程さえ合えば、Kitara以外の活動も行えますよ」というお話だったので、ポ文協でも彼女を中心に、何か演奏会を行えないか、画策していくつもりです。

尚、10月6日のデビューリサイタルでは、ポーランド文化を紹介するパネル展も催されるとのことで、資料提供で当協会も少し協力いたしました。お時間のある方は、ぜひ足をお運びください。

佐光伸一(さみつ・しんいち=事務局長)



筆者・カチョルさん・安田さん



## ポーランド広報文化センター お知らせ



ポーランド広報文化センターの「エキスパート」に、当協会の佐光伸一事務局長が、9月15日付けで就任することになりました。今注目のイベントを紹介していただきました。

「エキスパート」といわれるこのポストは、広報文化センターの活動を、ポーランド文化の専門家の立場からサポートするものです。

ポ文協と広報文化センターとのよきパイプ役となり、魅力的なイベントをできるだけ多く提供できるように尽力するつもりですので、これからもよろしくお願いたします。

最新のポーランド文化関連のイベントをご案内させていただきます。

### ■ ポーランドポスター '50-'60 展



2012年11月3日 - 12月3日

ヨコハマ創造都市センター

主催：ポーランドポスター展 実行委員会

観覧料：一般 800円(前売 700円)

高校・大学生 600円(前売 500円)

小・中学生 無料

戦後の荒廃したポーランドを勇気づけ、日本のグラフィックデザインにも大きな影響を与えたポーランドのポスター。

今なお輝き続ける、世界初のポスター美術館、ヴィラヌフポスター美術館所蔵の作品約150点を一堂にご覧いただける。

1950-1960年代、戦後のポーランドで花開いたエネルギー溢れるポスター文化。その約150点をご覧ください。

### ■ ミハウ・カロール・シマノフスキ ピアノ リサイタル



11月12日(月) 函館市芸術ホール

開演: 18:30

11月14日(水) とかちプラザレインボーホール

開演: 18:30

11月16日(金) 旭川大雪クリスタルホール

開演: 18:30

11月19日(月) 札幌市教育文化会館大ホール

開演: 18:30

#### 《プログラム》

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第32番ハ短調  
作品111

ブラームス: 3つの間奏曲 作品117

スクリアピン: 練習曲 嬰ハ短調 作品2-1

スクリアピン: 夜想曲 口短調 作品28

シマノフスキ: マズルカ作品50 第1-4

シマノフスキ: 変想曲 変口短調 作品3

チケット申し込み: 日本音楽文化交流協会  
tel/fax 03-3442-2325

### ■ ポーランド文化の最新情報は、「Twitter」 と「Facebook」でチェック!

ポーランド広報文化センターは、最新のイベント、雑誌やウェブサイトのポーランド関連の記事などについて、TwitterとFacebookで情報発信しています。私もときどき、Twitterでつぶやいていますよ。ご利用されている方は、ぜひフォローと「いいね」のクリックをお願いします!

(さみつ・しんいち=ポーランド広報文化センター「エキスパート」・ポ文協事務局長)

# 変わりゆくポーランドの サッカー事情 (2)

津田晃岐

POLE 第 75 号(6月発行)10 頁からの続きです。

私はこの4年間、ポーランドの西部の町、ポズナン市に住んでいる者だが、かつて北海道大学で学んでいたことから、札幌とも縁が深い。また、東京外国大学のポーランド学科にいた時には、ポーランド政府の奨学金をもらい、1998年から2000年にかけてクラクフ市に留学することができた。現在、ポズナン市の外国語大学で教えていながら、ポーランド人がいかに日本を見ているか、そしてポーランドがどのように変わったかを興味深く眺めている。そこで、変わりゆくポーランドの現在について報告を勧められた切っ掛けもあり、喜んで筆を執ったものである。

## 2. 「順調」?

そうしたサッカーの4年に一度の祭典、UEFA 欧州選手権が今年2012年にポーランドで(ウクライナとの共催ではあるが)開かれる。UEFA 欧州選手権は、「Euro ユーロ」とも呼ばれ(たいていは開催年を付けて「Euro 2012」というふうには呼ばれる)、クラブチームではなく、各国の代表チームが戦う。今年の場合、6月8日から7月1日の日程で行われる。6月8日、ワルシャワの国立競技場で熱戦の幕が切って落とされ、7月1日のキエフで決勝戦が予定されている。



Euro2012の優勝カップ。  
4月30日、大会に先立って、  
ポーランド全国をお披露目旅行した。



この間、大会の準備は着々と進められてきた。2009年12月には、大会のロゴとスローガンが発表された。大会のロゴは、地域の動植物を意識したデザインになっている。中央にサッカーボールをあしらひ、その両側には共同開催国を表す二つの花が一本の茎から伸びている。中央のボールは大会の感動と情熱とを象徴し、茎は大会を支える機構、すなわちUEFAと欧州サッカー界を表している。色は自然界から取られており、森の緑、太陽の黄、水の青、空の水色、ブラックベリーの花の紫が使われている。スローガンは、共同開催を意識して「Creating History Together ともに歴史をつくる」。

また2010年12月には、大会のマスコットが決められた。マスコットは双子という設定で、ポーランドのナ

ショナルカラーである赤と白のユニフォームを着て髪を染めている方が「スラベク Slavek」、ウクライナの青と黄色を纏っている方が「スラフコ Slavko」である。名前はファン投票によって決められた。

そして2011年3月1日から3月31日にかけて、観戦チケットが発売になり、UEFA.comで独占的に販売された。用意されたチケットが140万枚だったのに対して、寄せられた申し込みは1200万件以上に達した。4月に公証人立ち会いのもと、UEFAによって公正な抽選が執り行われ、当選者には4月末までに電子メールで通知された。応募者の全体の88%が共同開催国のポーランドとウクライナの国民だった。

これまでオリンピックやメジャースポーツの世界カップを招致したことのないポーランドにとって、初めての、一大イベントである。ヨーロッパ各国の選手やサポーターを迎えるホスト国として、ポーランド人のサッカー熱がさらに高まるのも当然である。

そうしたポーランド人の熱狂ぶりに水を差すつもりはさらさらない。大いに盛り上がりてもらいたい。しかし、このEuro 2012に関しては、決して面白いことばかりではない。それどころか、大会がまだ始まらないうちから、既に辟易しているポーランド人も実はかなりたくさんいる。特に試合の開催地に選ばれた都市の住民は、当初の喜びや誇らしさから一転、今ではある種の疲労感と倦怠感を日に日に募らせている。というのも、Euroのために、Euroに照準を合わせて始まったはずの準備が、もう大会が間近に迫った現在に至っても、一向に終わる気配を見せていないのだ。

2007年4月、ウクライナとともに2012年大会の開催地に選ばれて以来、ポーランドでは、熱狂の中、蜂の巣を突いたような工事ラッシュが全国で続いてきた。試合会場となる八都市の内、ポーランド側の四都市、ワルシャワ、ポズナン、ヴロツワフ、グダンスクでは、ワルシャワ国立競技場、ヴロツワフ市立競技場、アレ





ポズナン中央駅の新駅舎（右）と旧駅舎。  
新駅舎の後ろ半分は、実はまだ工事中  
（4月30日現在）。

ナ・グダンスクが大会のために新設され、ポズナン市立競技場も大幅に改修された。

その他、この四都市を結ぶ道路や鉄道の主要駅でも、軒並

み工事や改築が始まった。空港でも整備が行われてきた。また会場の四都市の市内でも、これを機会に道路や公共交通機関の設備、はては観光名所や街角の噴水に至るまで、あちこちを工事、修理、改築、新設し始めた。

ポーランドのスポーツ観光大臣や首相はこの間、「準備は順調」と繰り返してきた。が、これが「順調」なのだとしたら、どういうのが「不順調」なのか、と問いたくなるのが、実際に住んでいる身としての率直な感想である。

例えば、私の住んでいるポズナン市の場合、鉄道でやって来る者にとっての玄関口、ポズナン中央駅が（旧駅舎のすぐ横に新駅舎が建設されているのだが）長きに亘る工事の末、試合まで二週間を切った時点でもまだ完成していない。また、中央駅とカポニェラ環状交差点（ポズナン市の交通の要所）とを結ぶ区間の道路が、既に一年以上工事中であるにもかかわらず、今なお完成していない。つまり、鉄道でポズナン入りしたサポーターは、建設中の中央駅から目と鼻の先にあるカポニェラ環状交差点まで（距離にしてわずか数百メートル）徒歩で工事中の地帯を歩いていくなか、公共交通機関（路面電車かバス）でぐるりと迂回して辿りつくしかないのだ。そうならないためには、奇跡でも祈るしかない。空路の玄関口、Lawica 空港は拡張工事を5月初めに何とか終えた。自動車でポズナン入りするサポーターのためには、もう二年以上前から少しずつ道路の拡張工事と整備とが市の周縁部から順に行われてきたが、ここ一年ほどはようやく市の中心部に至り、あちこちで道路が掘り返され、アスファルトが捲られ、敷石が剥がされ続けている。文字通り、市内の至る所が工事中、通行止め、穴だらけで、まるで何かの災禍の後の復興期にでもあるかのような混乱ぶりである。もちろん、試合会場となるスタジアム周辺も広々と掘り返されていたが、こちらの方はさすがにもう終わっているようだ。

Euroに向けた、Euroのための工事だったはずである。市民の多くは、もはやこの準備がEuroに間に合うとは思っていない。とっくに諦めてしまっている。今は

ただ、なるべく早く混乱が終わってほしい、平静を取り戻してほしいと願っている。そして冗談交じりに、こう言い合っている。「一体いつ終わるのかね?」「次のEuroには間に合うだろう」「いや、あと二、三回は必要だろう」。また、真面目に心配している者もいる。「パパ、いつまで続くの?」「そうだね、息子よ。父さんもイライラしてるところだよ」

当然の事ながら、この混乱の煽りを一番食っているのは、住民である。自動車通勤する者は、日々変わる道路工事の状況をチェックして、通行止めの箇所と迂回路とを毎日確認しなければならない。公共交通機関、特に路面電車を利用する者は、突然変更される路線にも慌てず素早く対処できる柔軟性を常に持っていなければならない。昨日と同じ路面電車に乗っても、今日は突然一つ手前の道路で曲がったり、曲がるはずの交差点を直通したり、ということがごく普通に起こる。乗客のほとんどは、その時点で始めて路線が変わったことに気づく。もちろん、各路面電車の正面には大きな文字で、時には赤字で、「路線変更」と書かれているが、一年以上にも亘って変更の上に変更を重ねてきた結果、今ではどれが元の路線だったのか誰も分からず、どういう路線をどのように変えた「変更」なのか一向に要領を得ない。乗客は車内で互いに尋ね合い、半ば不満そうに、半ば諦め顔で、黙って次の停留所で降り、昨日まで乗ったこともない新たな路線に乗り換えて、何とか目的地に辿り着こうとする。

ところで、ポズナン市の公共交通機関（バスと路面電車）は少し変わっている。多くの町では、定期券を除けば一回券が主流で、市内は料金一律、乗り換えた場合に次の切符を切るのだが、ポズナン市では15分と30分の時間券が主流で、乗車後、切符を切ると乗車時間が打刻され、15分以内なら乗り換えは何度でも自由なのだ。これは、人口の割には比較的コンパクトにまとまったポズナンという町の構造を反映したもので、実際、市内の多くの移動は15分で足りる。ところが、この道路工事の結果、バスも路面電車も迂回を強いられ、これまで15分で到達可能だった場所が15分で辿り着けなくなるケースが当然のことながら増えた。そこで、ポズナン市交通局MPKは、2011年9月26日からEuro直前の2012年5月31日まで、15分券の有効時間を25分間に、30分券を45分間に延長することを決めた。

### 3. 「サポーター地帯」

インフラ面の遅れと混乱は目を覆うばかりだが、その他の準備は着々と進んでいるようである。

大会が近づくにつれ、Euro やサッカーを特集した様々な雑誌や書籍が書店やキオスクに並ぶようにな

り、その数、種類は日に日に増えている。

また、デパートやスーパーや小売店でも、「サポーター地帯」の名の下に特別コーナーが設けられ、サポーターのためのグッズを用意している。例えば、Euro 2012 のロゴが入ったサッカーボール、T シャツやソックス、リュックサックや鞆、マグカップやビアグラス、赤と白に彩られたサポーター用のマフラーやメガホンや帽子といった応援グッズ、また、飲料やお菓子もサッカーボールの模様をあしらった Euro 用パッケージに変わっている。

「strefa kibica サポーター地帯」というのは、実は「パブリックビューイング」を意味するポーランド語で、スタジアムに入れないサポーターのための応援スペースである。今回は Euro の試合が直接行われない都市にも、大画面テレビと大人数収容可能なスタンドを備えた大規模な応援スペース「サポーター地帯」が作られている。

しかし一方で、サッカーに興味のないポーランド人、それどころか「サッカー」と聞いただけでアレルギーを起こしてしまうポーランド人、あるいはサッカー自体は嫌いでないもののマスコミのヒステリックな騒ぎぶりにうんざりしているポーランド人も、少数派ながらいる。そんな人たちのために、「非サポーター地帯」と銘打ち、アンチ・サッカーファンの避難所として機能し始めている場所もある。保養地あるいは景勝地として有名なザコパネ市、マズーリ湖沼地方、ビェシュチャディ山地などでは、町あるいは地域をあげて、「Euro 2012 のない町」あるいは「サッカーから自由な町」を謳い、静かさや安らぎを宣伝している。

ポズナン市でも、「Euro から自由な地帯」と銘打った小劇場「Mój Teatr 私の劇場」があり、「選手権期間中は Euro 2012 という言葉もサッカーという言葉も聞かれない」。「その代わりに芝居、コンサート、リサイタルや作家トークを提案します」と劇場オーナーは話す。

また、カトリック教会でも Euro のための準備が進められ、イタリア代表、オランダ代表、イングランド代表のキャンプ地に選ばれたクラクフ市では、ヨーロッパ各地から押し寄せるサポーターたちに備えて、各国語(英語、イタリア語、ドイツ語、ラテン語)でのミサが準備されており、英語、イタリア語、ドイツ語で告解(いわゆる「懺悔」)を行える準備も進んでいる。

さらに、サポーターたちの市内の移動の便を図るために、ポズナン市ではセルフサービスのレンタサイクルが市内数箇所設置された。クレジットカードやプリペイド式で利用される。レンタサイクルのステーションで本人認証した後、表示されるコード番号を自転車のロックに登録すると、ロックが外れ、自転車が利用できるというものである。レンタル料は、借りた時間によって変わる。返却の場合は、借りた場所に返すのが最善だが、追加料金を払って別のステーションに



ポズナン中央駅からカポニェラ環状交差点を眺める。完成まで程遠い? (4月30日現在)

返すことも可能である。

それからもう一つ、サポーターに関連して、現在ポーランドで話題になっているものがある。音楽グループ「Jarzębina ヤジェンビナ」の「Koko Euro Spoko コッコ、ユーロ、オックケー」で、大ヒットしている。

「ヤジェンビナ」とは西洋ナナカマドの実のことである。西洋ナナカマドはポーランド全土でごく普通に見られる樹木で、その赤い実はポーランド人にとって秋を告げると同時に、果実酒にしたりジャムにしたりと、親しみのある植物である。音楽グループ「Jarzębina」は1990年、Kocudza という村出身の女性たちによって結成され(メンバーは現在18名で全員女性)で、普段は Kocudza 村があるポーランド南東部、ウクライナとの国境付近に伝わる民謡や聖歌などを歌っている。歌の一部に方言を使用している他、ステージには出演する際には、村の伝統的な衣装を着ていることが多い。

「コッコ、ユーロ、オックケー」は、サポーターたちが応援の際に手拍子や足踏みやメガホンを叩きながら作るリズムを利用して歌われるが、ポーランドの昔ながらの村女を髣髴とさせる語り口も見られる。「hen すこぶる」のような古い表現と「spoko オックケー」のような現代的な表現とが混在している。ちなみに、「コッコ」は鶏の声を模した擬声語で、歌中に出てくる「スムダ」は、ポーランド代表の現監督 Franciszek Smuda 氏のことである。

コッコ コッコ ユーロ オックケー  
すこぶる高く ボールが飛ぶよ  
皆して一緒に歌おうよ  
うち等の者に 気合い入れるよ

うち等の逞しい男たち  
白と赤の男たち  
きっと勝てるさ  
スムダだって喜ぶさ  
へイ!

つだ・てるみち(ポズナン外国語大学講師)

五・七・五の17音を定型とする短い詩<俳句>。  
ふたりの俳人“陽石” & “千代麿”による連載

ポーランド & ニッポン歳時記

<ボズナン在住。ポーランド人女性 陽石さん>

幼いころから文学に親しみ、特に日本の文学に興味を覚える。俳句は三年前から詠みはじめる。

<岩見沢市在住。霜田千代麿さん>

1992年より作句する。伝統俳句協会会員。現代俳句協会会員。北海道俳句協会選者。「夏至」同人。



ポーランドの夏休みは、野菜や果物の収穫期、そしてそれらを冬に備えて瓶詰めにする時期でもある。特に8月は、胡瓜の採れる頃で、「胡瓜シーズン」と呼ばれる。ポーランドの美味になつている「腐った胡瓜」は、胡瓜の漬物で、ニンニクと西洋ワサビ、イノンドというハーブで風味をつける。秋と冬の長い夜には、夏の欠片の詰まった瓶を開けるのが、ちよつとした楽しみとなる。

ラズベリー小瓶の中の夏休み

słodkie maliny  
smak wakacji zamknięty  
w małym słoiczku

夏来たり苺ミルクの香る朝

ranek pachnący  
mlekiem i truskawkami  
początek lata



道端に林檎の熟みて奢る夏

jabłka się psują  
na ulicy opadłe  
rozzutność sierpnia  
soczyste słońcem



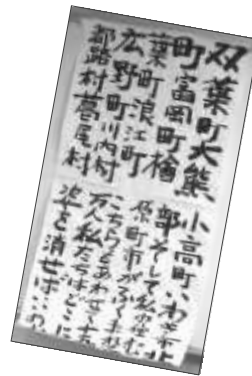
婚宴に天も涙す夕立かな

przyjęcie ślubne  
wzruszone niebo płacze  
wieczornym deszczem

ふくろうの湯てふ温泉の

ガマの穂や

(ガマの穂-晩夏)



開拓の

み霊送りの

ガンピの火

(み霊送り-初秋)



吾不明人生不明すだく蟲

(すだく蟲-三秋)



書 (しもだ・ちよまる) 上から  
福島町の名 神隠しされた街 午後のPoezja  
—「午後のポエジア」会場展示から—



## 今後の活動予定



◆<第26回>総会&創立25周年記念パーティ  
11月3日 ニューオータニイン札幌

◆<第63回例会> 21世紀のショパン像  
～「新書簡集」出版を祝う～  
11月17日(土) 北大情報教育館3階

◆<後援事業> “ コルチャック先生”  
講演と学びのタベ&パネル展  
11月20日(火) 札幌エルプラザ3階

◆<第64回例会> ポーランド映画セレクションⅢ  
2013年 5月25-26日(土日)  
北大学術交流会館講堂 予定

## 新入会員のご紹介



進藤崇子さんと大沼明さん(6月)、  
畑山修さん(9月)が入会されました。  
どうぞ宜しくお願い致します。  
(副事務局長・栗原)



## 新年度の会費納入のお願い

(2012年10月～～2013年9月分)

当会は、皆様からの年会費のみで運営されています。  
本年度分の会費の納入を同封の払込票をご利用の上、  
宜しくお願いいたします。

総会会場での  
納入も  
申し受けます。

【郵便振替口座】  
02740-5-19735  
北海道ポーランド文化協会

- ◆普通会員(年額)3000円
- ◆維持会員(年額1口)5000円
- ◆学生会員(年額)1500円



ソハの地下水道

ポーランド  
映画情報

## 『ソハの地下水道』(2011)

1943年ナチス政権下のポーランド。迷路のように張り巡らされた地下水道。恐怖、葛藤、忍耐、良心を追及した傑作の誕生を是非お見逃しなく!

監督:アグニェシュカ・ホランド  
ドイツ・ポーランド合作 145分  
原題:『In darkness』  
原作:「ソハの地下水道」(集英社文庫)

<本年度アカデミー賞外国語映画賞ノミネート>

ワイダの弟子で、ヨーロッパで広く活躍するポーランドの女性監督、アグニェシュカ・ホランド=写真右下=の新作が「シアターキノ」で11月3日から上映されます。

『秘密の花園』(1993)、『太陽と月に背いて』(1995)、最近では『敬愛なるベートーヴェン』(2006)の監督さんとしても有名ですね。ワイダの名作『地下水道』の姉妹編と言っても過言ではない作品です。そして、ポーランド広報文化センターが後援にもなっています。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。(事務局)



## 当協会のホームページを開設しました!



<http://hokkaido-poland.com/>  
または  
「北海道ポーランド文化協会」で検索!

(事務局から)

POLE

第76号 ポーランド編集委員会  
<http://hokkaido-poland.com/>

氏間多伊子 柏木由美子  
栗原朋友子 佐光伸一  
ラファウ・ジェプカ

## 北海道ポーランド文化協会会誌

POLE 第 76 号 (2012 年 10 月)

## 目 次

安藤厚「北海道ポーランド文化協会創立 25 周年！」、第 26 回総会及び創立 25 周年記念祝賀会 [案内] .....	1
〈第 63 回例会〉 21 世紀のショパン像～新書簡集出版を祝って [案内] .....	2
塚本智宏「"コルチャック先生"講演と学びの夕べ&パネル展、『子どもの権利条約記念日』に、ワルシャワ大学の W.タイス教授が来札！」 [案内] .....	3
小林暁子〈第 62 回例会報告〉 [第 2 回]「午後のポエジア」 [2012.6.16] .....	4
佐光伸一「Kitara に響くポーランドオルガン音楽〈第 15 代〉札幌コンサートホール専属オルガニストマリア・マグダレナ・カチョルさん来る 6 日 (土) お披露目公演！ [デビューリサイタル：札幌コンサートホール Kitara 大ホール、2012.10.6] .....	6
〈ポーランド広報文化センターお知らせ〉 佐光伸一「ポーランドポスター'50-'60 展、ミハウ・カロール・シマノフスキ ピアノリサイタル」 [ポーランド広報文化センターの「エキスパート」に当協会の佐光伸一事務局長が就任] .....	7
津田晃岐〈ポーランドだより 8〉「変わりゆくポーランドのサッカー事情 (2)」 .....	8
陽石 [津田モニカ]・霜田千代麿〈ポーランド&ニッポン歳時記〉 .....	11
[事務局より] 今後の活動予定：第 26 回総会&創立 25 周年記念パーティ、21 世紀のショパン像、〈後援事業〉"コルチャック先生"講演と学びの夕べ&パネル展、ポーランド映画セレクションⅢ、〈ポーランド映画情報〉「ソハの地下水道」 [シアターキノ、2012.11.3-]、当協会のホームページを開設しました！ .....	12